「大学における必修科目の長期実践型インターンシップの導入プロセス」

名古屋産業大学　現代ビジネス学部
経営専門職学科　准教授　今永典秀

1.自己紹介

2.大学におけるインターンシップの課題

3.名古屋産業大学の経営専門職学科（長期インターンシップ）の導入プロセス

(1)学生に対する教育（教育プログラム、関与方法、評価方法など）

(2)企業に対するアプローチ（事前・途中・事後）

(3)学内の体制、協力体制の整備

4.まとめ（メッセージ）

Profile

今永典秀　博士（工学）

名古屋産業大学　現代ビジネス学部　経営専門職学科　准教授
地域連携センター長、キャリア支援委員長

- 名古屋大学　就活サポーター代表（総長懸賞受賞）
- 2005　住友信託銀行　法人営業、事業再生
- 2011　東和不動産　経営企画・事業開発　まちづくり
- 2012　市民活動団体NAGOYA FOREVER
- 2015　岐阜大学　地域協学センター　次世代地域リーダー育成プログラム
- 2019　名古屋産業大学　准教授
- 2024

学生向け教科書

企業向け教科書

若手社会人向け

大学におけるインターンシッププログラムの開発

1.8年間でのべ1,000名以上の学生が参加
2.1日、5日程度、１ヶ月、３ヶ月以上のプログラム開発
3.体験から企画・新規事業など、規模・業種も様々
　様々な種類のプログラム開発と実践

CCSC 地域協学センター
Center for Collaborative Study with Community
国立大学法人　岐阜大学

特筆した成果（受賞歴・書籍）

1.日本インターンシップ学会
　第4回・第5回槇本記念賞、秀逸な事例
2.COC +事業　唯一の中間・最終S評価
3.専門職大学の開設の実質的現場責任者
（日本初の大学の学部・学科としての設立）
4.インターンシップ書籍3冊

企業向けのインターンシップ

1.企業向けの1日プログラムセミナー
　100社以上の参加
2.個別アドバイス・プログラム策定など
　10社以上
3.行政・中間支援団体へのアドバイス
　G-net、瀬戸市役所など

インターンシップに関連する研究

1. 15件以上の論文（うち、査読付き論文8件）
2. 地域創生・コーディネーター・企業向け・大学の
　プログラム開発・事例（学生・企業など）

G-net

2016年4月～
2019年3月

岐阜大学
地域協学センター
特任助教

・インターンシップ　多数
・自己省察と将来のキャリア設計
・地域産業と企業戦略入門
・地域資源の活用と観光デザイン
・イノベーション型インターンシップ
・プロジェクト型インターンシップ
・産業リーダー実践
　など

2019年4月～
2021年3月

名古屋産業大学
現代ビジネス学部
准教授

・マーケティング
・経営戦略
・地域ビジネス論
・地域ネットワーク論
・インターンシップ
・ゼミナール

名古屋経営短期大学

・インターンシップ
・ゼミナール

非常勤講師
・人的資源管理論
・リーダシップ
・少子高齢化と福祉・労働

2021年4月～

名古屋産業大学
現代ビジネス学部
経営専門職学科
准教授

・キャリアデザイン
・共創・フューチャーセンター
・地域連携論
・インターンシップ
・長期インターンシップ
・企業調査実習
・統計調査実習
・プロジェクト実習
・社会創造実習

0.大学外

ボランティア
学生支援

1.学部外の部局

新規事業としてのIS
プログラムの設立

2.学内での改善・変革

ISプログラムの改善

3.新設大学での新規教育
プログラムの設立

ISプログラム新規設立

その他：長期実践型インターンシップ、行政や企業のプログラム設計　など
（中間支援団体）

長期実践型インターンシップの教科書

日本で初めて、「長期」の範囲をカバーした、学生に対する教科書

・大学における授業（長期以外にも・キャリア教育・ゼミナールk）

・企業のインターンシップの事前研修

・インターンシップを行う事業主体の方へ

◎ 長期実践型インターンシップ経験者の追跡調査と体験談集
◎ インターンシップをキャリア形成に最大限活かす方法
◎ コーディネーターからの的確なアドバイス集
◎ 役立つWeb紹介など充実のコラム21本

編著者：1.今永典秀
著者：(アイウエオ順)

2.市川大佑	3.伊藤淳司	4.岩出朋子	5.岡本竜太
6.掛川遥香	7.木村亮介	8.桑畑夏生	9.佐々木梨華
10.篠田啓介	11.白木邦貞	12.新村拓也	13.須子善彦
14.髙木朗義	15.髙濱優子	16.田中勲	17.棚瀬規子
18.中川玄洋	19.浜中裕之	20.坂野充	21.松林康博
22.水谷衣里	23.南田修司	24.宮原知沙	25.森山奈美
26.渡辺一馬			

2024年3月　ミネルヴァ書房　定価：2,200円（税込）

「長期実践型インターンシップ」とは？

一か月以上の長期間で、
専属のコーディネーターが学生と企業双方に、
事前・インターンシップの実施中・事後にわたって、
伴走支援を行うことで、
企業の事業価値を高めながら、
学生の教育効果の実現を両立するインターンシップ

1.自己紹介

2.大学におけるインターンシップの課題

3.名古屋産業大学の経営専門職学科（長期インターンシップ）の導入プロセス

(1)学生に対する教育（教育プログラム、関与方法、評価方法など）

(2)企業に対するアプローチ（事前・途中・事後）

(3)学内の体制、協力体制の整備

4.まとめ（メッセージ）

(私の感じている)課題認識

1.教員同士で連携して実施することの困難さ

2.教員と職員の関係性

3.インターンシップの担い手、協力関係者

4.学生の参加意欲とプログラムのマッチング

（学生がそもそも参加者が少ない）

（単位だから参加する学生と、プログラムのミスマッチ）

5.実施しようとしても、予算や人を配置してもらえない（理解に乏しい）
→その割には色々やって欲しいと適当に無責任に言われる

6.企業との関係性・企業との連携の困難さ

7.尖ったプログラムをすればするほどリスクは高く、どうやって学生に活躍させるか？

8.実践と研究（成果の取りまとめ）との乖離・ギャップ

9.単純にめちゃくちゃストレスが溜まるのをどうやって落ち着けるのか？

実践から見えてきたメリット・デメリット

	企業などが任意で実施	学内の正課外・プロジェクト	学内での改善	新規の取り組み（学部新設）
学生の参加の誘導	大変	少し大変	連携が可能	必修とすることもできる
教職員の連携	困難	学内との連携が困難	既存と新規の対立	他と比べると優位　組織化できるか
機動的な実施	可能	早くもできる	困難	改善よりは早い
自由度・特殊なプログラムの実施	可能	可能性が高い	困難	新規に組み込めるが、改善は工夫が必要
大学の教育ポリシーとの一体化	困難	困難	改革は困難	新規に組み込める
体系的なプログラムの実施（事前・事後などの連携）	困難	困難	改革は困難	新規に組み込める
特徴（メリット）	**機動的に自由に実施**	**機動的・自由度**	**学生の参加**	**連携・体系性を確立できる**
課題	**教育プログラムとの連携**	**大学・学部との連携・体系性**	**改革のスピード**	**大変・労力はかかる**

日本の大学における「インターンシップ（特に長期）」の課題・限界

課題1

大学のインターンシップへの学生参加率が少ない

企業主体のインターンシップは8割以上
大学の単位化参加率は1割以下
学生のニーズとのミスマッチ問題
（プログラムが微妙なのか？）

課題2

大学で学んだ知識・技能技術と合致していない

インターンシッププログラムの品質
大学における専門人材の不足
誰が、良いインターンシップ
プログラムを作れるのか？

課題3

1ヶ月以上のプログラム（長期）が困難

長期（1ヶ月以上）が教育効果が高い
一方、実施率は1%以下

教育効果が期待できる反面、障壁は高い状況にある

1.自己紹介

2.大学におけるインターンシップの課題

3.名古屋産業大学の経営専門職学科（長期インターンシップ）の導入プロセス

(1)学生に対する教育（教育プログラム、関与方法、評価方法など）

(2)企業に対するアプローチ（事前・途中・事後）

(3)学内の体制、協力体制の整備

4.まとめ（メッセージ）

専門職大学の制度を活用し「インターンシップ（特に長期）」を展開する

課題1

大学のインターンシップへの学生参加率が少ない
（10%以下と言われている）

全員必修授業　600時間以上の実習
（専門職大学の制度）

課題2

大学で学んだ知識・技能技術と合致していない
（企業任せで、社会人基礎力を養成するにとどまる）

3分の１以上が実習科目
実務家教員4割以上
（専門職大学の制度）

実習の科目名	担当	時期	身につける能力	技術・技能（タスク）
企業調査実習	今永典秀	2年前期	企業の現状分析、改善提案	企業分析（SWOT分析、3C分析　5F分析）
プロジェクト実習		2年後期	顧客データ活用、計画・事業推進	企画策定・マーケティングリサーチ（ケーススタディ）
統計調査実習		2年後期	市場・業績データの分析・活用	企業分析・アンケート調査分析
ビジネス情報処理実習	世古雄紀（実務者）	1年後期	デジタルデータ活用の基礎	テクノロジーの幅広い知識・デジタルデータの基礎
データベース実習		2年前期	デジタルデータの活用	データベース理解・データの加工技術（Access）
データサイエンス実習		2年後期	データを活用した推進能力	Pythonの基礎・データサイエンスのビジネスへの展開

課題3

1ヶ月以上のプログラム（長期）が困難　長期は１％以下？
（受入企業の開拓の難しさ、プログラム設計ノウハウ）

（本学の場合）
インターンシップ専門人材2名が
プログラムを作成
（企業・外部業者に丸投げしない）

名古屋産業大学　建学の精神

2021年4月　日本で初めて（今でも唯一）
「専門職大学の制度を活用した」学科を設立

職業教育を通して社会で活躍できる人材を養成する

経営専門職学科の養成する人材像

デジタルデータの知識技能を駆使し、
企業経営や社会の変化に対応した
事業の実践を通じて、
価値創造に貢献する専門職人材を養成

DP5 デジタルデータと事業の実践的な知識技能を応用し、事業の改善や価値創造を担うための職業実践力を身に付けている。

CP5 職業専門科目の臨地実務実習、および総合科目では、デジタルデータと事業の実践的な知識・技能を応用し、職業実践力を養成する。

デジタルデータ活用・経営　領域の専門職人材養成

本学の建学の精神：「職業教育」をとおして社会で活躍できる人材の育成

名古屋産業大学の経営専門職人材

1）デジタルデータの知識技能を備えた高度な実践力

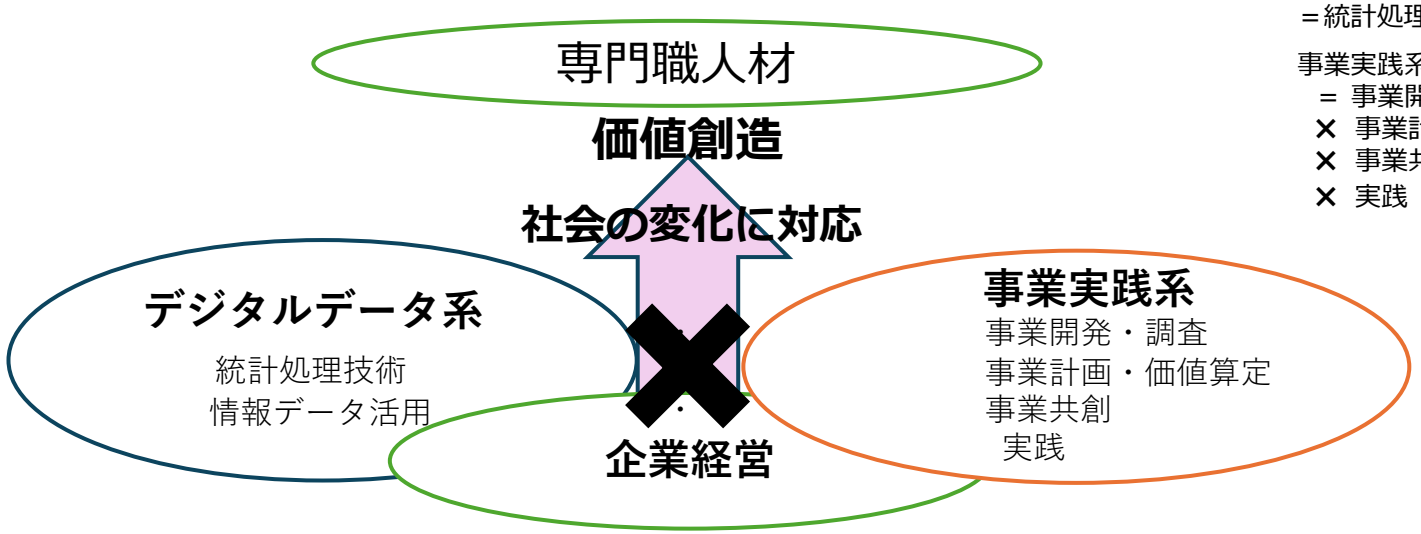
2)事業に関する高度な知識と豊かな創造力を有し、事業の価値創造に貢献できる人材

養成する人材

「デジタルデータの知識技能を駆使し、企業経営や社会の変化に対応した事業の実践を通じて、価値創造に貢献する専門職人材を養成する」

デジタルデータ系
＝統計処理技術✕情報データ活用

事業実践系
＝ 事業開発・調査
✕ 事業計画・価値
✕ 事業共創
✕ 実践



本学における「デジタルデータ」の定義：主にAI、IoT、ビックデータなどの数値データであり、その中で事業の実践プロセスに関するデータと、これを評価する業績データ、市場データ、顧客データなどの企業経営に関するデータを対象とする

養成する人材像と3つのポリシーの関係性

養成する人材像

デジタルデータの知識技能を駆使し、**企業経営**や**社会の変化**に対応した**事業**の**実践**を通じて、**価値創造に貢献する専門職人材**を養成する

社会人としての一般的・汎用的能力 × **企業経営** × **デジタルデータ** × **事業** × **実践** × **社会の変化**

ディプロマ・ポリシー

- DP1 社会人としての教養、一般的・汎用的能力とキャリア形成力、コミュニケーション能力を身に付けている
- DP2 専門職業人としての基盤となる企業経営に関する知識を身に付けている
- DP3 デジタルデータの活用に関する実践的な知識技能を身に付けている
- DP4 事業に関する実践的な知識技能を身に付けている
- DP5 デジタルデータと事業の実践的な知識技能を応用し、事業の改善や価値創造を担うための職業実践力を身に付けている
- DP6 社会の変化に対応し、デジタルデータの活用や事業の実践に隣接する応用的な能力を修得している

教育課程

- 一般・基礎科目
- 職業専門科目 専門基礎教育科目
- デジタルデータ系：職業専門科目 専門教育科目
- 事業実践系：職業専門科目 専門教育科目
- 職業専門科目・総合科目 臨地実務実習
- 展開科目

カリキュラム・ポリシー

- CP1 社会人としての教養、一般的・汎用的能力とキャリア形成力、コミュニケーション能力を養成する
- CP2 企業経営に関する知識を養成する
- CP3 デジタルデータの活用に関する実践的な知識技能を養成する
- CP4 事業に関する実践的な知識技能を養成する
- CP5 デジタルデータと事業の実践的な知識技能を応用し、職業実践力を養成する
- CP6 社会の変化に対応し、事業の実践に隣接する応用力を養成する

アドミッション・ポリシー

AP1　聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力の基礎を身に付けている人
AP2　主体性を持ち、コミュニケーションをとりながら協働し、実践的な知識の習得に取り組む意欲がある人
AP3　デジタルデータ活用の技能技術を身に付けるための基礎学力と統計処理に必要となる論理的な思考力を有する人
AP4　高等学校の教育課程で身に付けた基礎的な知識や技能をもとに、企業経営、デジタルデータの分野に関心を持ち、自らの考えを説明できる人
AP5　デジタルデータの知識や技能を活用し、豊かな創造力を身につけ、企業・組織の発展に貢献する意欲がある人

カリキュラムマップ

本学の建学の精神：「職業教育」をとおして社会で活躍できる人材の育成

名古屋産業大学が育成する「経営専門職人材」

１）デジタルデータの知識技能を備えた高度な実践力

２)事業に関する高度な知識と豊かな創造力を有し、事業の価値創造に貢献できる人材

養成する人材像

デジタルデータの知識技能を駆使し、企業経営や社会の変化に対応した事業の実践を通じて、価値創造に貢献する専門職人材を養成する

合計124単位以上（必修100単位）	1	2	3	4	5	6	7	8
一般・基礎科目 **20単位以上（必修18単位）**	**・教養科目・コミュニケーション科目** ・経済学 ・情報入門 ・キャリアデザインⅠ ・基礎ゼミナールⅠ	・基礎ゼミナールⅡ	・キャリアデザインⅡ ・基礎ゼミナールⅢ	・基礎ゼミナールⅣ		・キャリアデザインⅢ		
職業専門科目 **80単位以上（必修70単位）** 専門基礎科目 **12単位以上（必修10単位）**	・経営学総論 ・簿記 ・マーケティング ・会社法 ・統計学基礎	・経営管理論 ・ファイナンス ・地域経済論 ・ビジネスエコノミクス						
専門科目 **48単位以上（必修40単位）** デジタルデータ系 **必修12単位**	・データベース	・ビジネス情報処理実習 ・統計処理とデータマイニングⅠ ・統計処理とデータマイニングⅡ	・データベース実習 ・デジタルデータ活用	・データサイエンス実習 ・ビッグデータの活用 ・人工知能とIoT ・統計調査実習			**（応用（イノベーション）選択）3科目から1科目以上（2単位以上）** ・人工知能とIoTの活用のイノベーション	
事業実践系 **必修２０単位**	・事業概論	・事業データ概論 ・共創・フューチャーセンター	・企業調査実習 ・事業計画と資金調達 ・事業採算分析	・プロジェクト実習 ・事業の調査と分析 ・商品開発実践 ・事業計画実践 ・事業価値算定 ・事業共創		・事業改善実習 ・社会創造実習	・ソーシャルイノベーション	・サービスイノベーション
専門ゼミナール **必修8単位**					・専門ゼミナールⅠ	・専門ゼミナールⅡ	・専門ゼミナールⅢ	・専門ゼミナールⅣ
臨地実務実習 **必修20単位**			・インターンシップ		・長期インターンシップⅠ－Ⅲ（18単位）			
展開科目 **20単位以上（必修8単位）**	・地域文化とまちづくり ・ダイバーシティと女性活躍推進	・観光地域開発 ・モラルと共感の心理学 ・地域スポーツコミッション	・地域連携論 ・地域公共政策 ・ワークライフバランスとワーケーション	・コミュニティ心理学 ・共生社会福祉 ・ヘルスケアマネジメント		・環境生態学 ・人材育成と組織開発		
総合科目 **必修4単位**							・事業価値創造実習Ⅰ	・事業価値創造実習Ⅱ

教養 → **専門知識・技能** → **実務力** → **創造力** → **総合力**

CP1社会人としての教養、一般的・汎用的能力とキャリア形成力、コミュニケーション能力を身に付けている

DP1 一般・基礎科目は、社会人としての豊かな人間性やキャリア形成力、コミュニケーション能力を重視した一般的・汎用的能力を養成する教育内容で構成する

CP2専門職業人としての基盤となる企業経営に関する知識を身に付けている

DP2 職業専門科目の専門基礎教育科目は、企業経営に関する知識を養成する教育内容で構成する

CP3 デジタルデータの活用に関する実践的な知識技能を身に付けている

DP3 職業専門科目の専門教育科目は、デジタルデータの活用に関する実践的な知識技能を養成する教育内容で構成する

CP4 事業に関する実践的な知識技能を身に付けている

DP4 職業専門科目の専門教育科目は、事業に関する実践的な知識技能を養成する教育内容で構成する

CP5デジタルデータと事業の実践的な知識技能を応用し、事業の改善や価値創造を担うための職業実践力を身に付けている

DP5 職業専門科目の臨地実務実習、および総合科目では、デジタルデータと事業の実践的な知識技能を応用し、職業実践力を養成する教育内容で構成する

CP6社会の変化に対応し、デジタルデータの活用や事業の実践に隣接する応用的な能力を修得している

DP6 展開科目では、社会の変化に対応し、事業の実践に隣接する応用力を養成する教育内容で構成する

カリキュラムツリー

2020年8月20日

卒業後の進路イメージ

サービス業を中心とし、その他の業種のデータ分析・活用の職種

デジタルデータ活用：総務（情報系・事業・業務改善）

データ分析：マーケティング・財務会計・経営企画（事業・業務分析、事業立案・企画、推進）

養成する人材象

デジタルデータの知識技能を駆使し、企業経営や社会の変化に対応した事業の実践を通じて、価値創造に貢献する専門職人材を養成する

DP1　社会人としての教養、一般的・汎用的能力とキャリア形成力、コミュニケーション能力を身に付けている

DP2　専門職業人としての基盤となる企業経営に関する知識を身に付けている

DP3　デジタルデータの活用に関する実践的な知識技能を身に付けている

DP4　事業に関する実践的な知識技能を身に付けている

DP5デジタルデータと事業の実践的な知識技能を応用し、事業の改善や価値創造を担うための職業実践力を身に付けている

DP6　社会の変化に対応し、デジタルデータの活用や事業の実践に隣接する応用的な能力を修得している

デジタルデータ系　統計処理　情報

事業実践系　事業の調査・開発　事業計画価値算定　事業共創　実践

実習は赤字
必修は下線

発展　4年生

統合　3年生

実践

基礎・実践　2年生

基礎　1年生

4セメ終了時
ゼミ確定

一般基礎科目

- 講義
- ゼミナール
- ・キャリアデザインⅠ
- ・キャリアデザインⅢ
- ・キャリアデザインⅡ

職業専門科目 専門基礎科目

- ・経営学総論
- ・簿記
- ・統計学基礎
- ・マーケティング
- ・経営管理論
- ・ファイナンス
- ・地域経済論

職業専門科目 専門科目

3科目中1科目以上選択する

- ・人工知能とIoT活用のイノベーション
- ・ソーシャルイノベーション
- ・サービスイノベーション
- ・事業改善実習
- ・社会創造実習

臨地実務実習　長期インターンシップⅠ－Ⅲ

- ・統計調査実習
- ・データサイエンス実習
- ・ビッグデータの活用
- ・人工知能とIoT
- ・プロジェクト実習
- ・事業の調査と分析
- ・事業共創
- ・商品開発実践
- ・事業計画実践

臨地実務実習　インターンシップ

- ・デジタルデータ活用
- ・データベース実習
- ・企業調査実習
- ・事業採算分析
- ・事業計画と資金調達
- ・ビジネス情報処理実習
- ・統計処理とデータマイニングⅠ
- ・統計処理とデータマイニングⅡ
- ・事業概論
- ・事業データ概論
- ・共創・フューチャーセンター

臨地実務実習

- 専門ゼミナール
- 卒業研究
- 専門ゼミナール

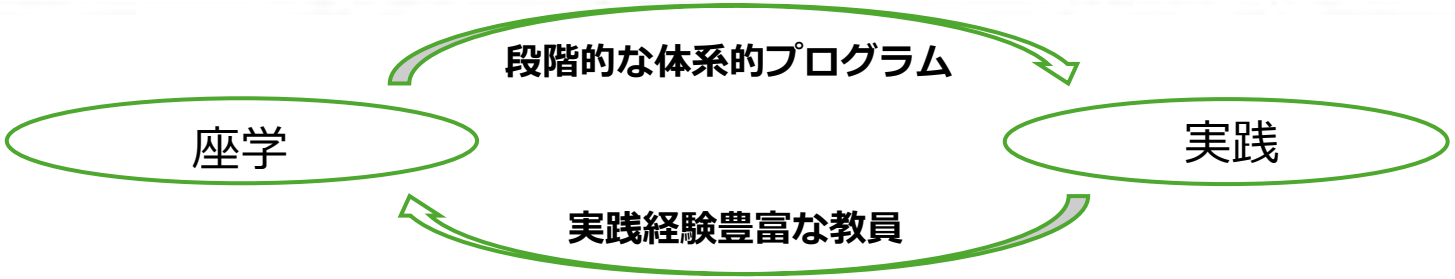
展開科目

- ・環境生態論
- ・地域連携論
- ・コミュニティ心理学
- ・ヘルスケアマネジメント
- ・地域文化とまちづくりの未来
- ・モラルと共感の心理学

総合科目

- ・事業価値創造実習Ⅰ
- ・事業価値創造実習Ⅱ

実習教育の全体像 （教育プログラム）



○一般基礎科目　キャリア教育・ゼミナール、他教養科目
豊かな人間性・職業倫理・コミュニケーション能力を養成

○実践的知識・技能を座学で学ぶ
デジタルデータ系：統計処理技術と情報データ活用
事業実践系：事業調査・開発、事業計画・価値算定、事業共創と実践

○体系的な実習プログラム(合計40単位)
デジタルデータ系と事業実践系の知識・技能・技術を習得するための、体系的な実習科目の配置
実務経験を有する教員と、実務者による実践的な実習講義

○インターンシップ実習(20単位)
2年生の夏休みは10日間、3年生の前期は約3ヶ月間、学んだ知識を生かした実践的な企業での実習を経験できる

○豊かな創造力を身につける展開科目
社会変化に対応する力、職業専門科目の隣接領域の他分野科目　地域創生・社会課題

一般基礎科目：20単位

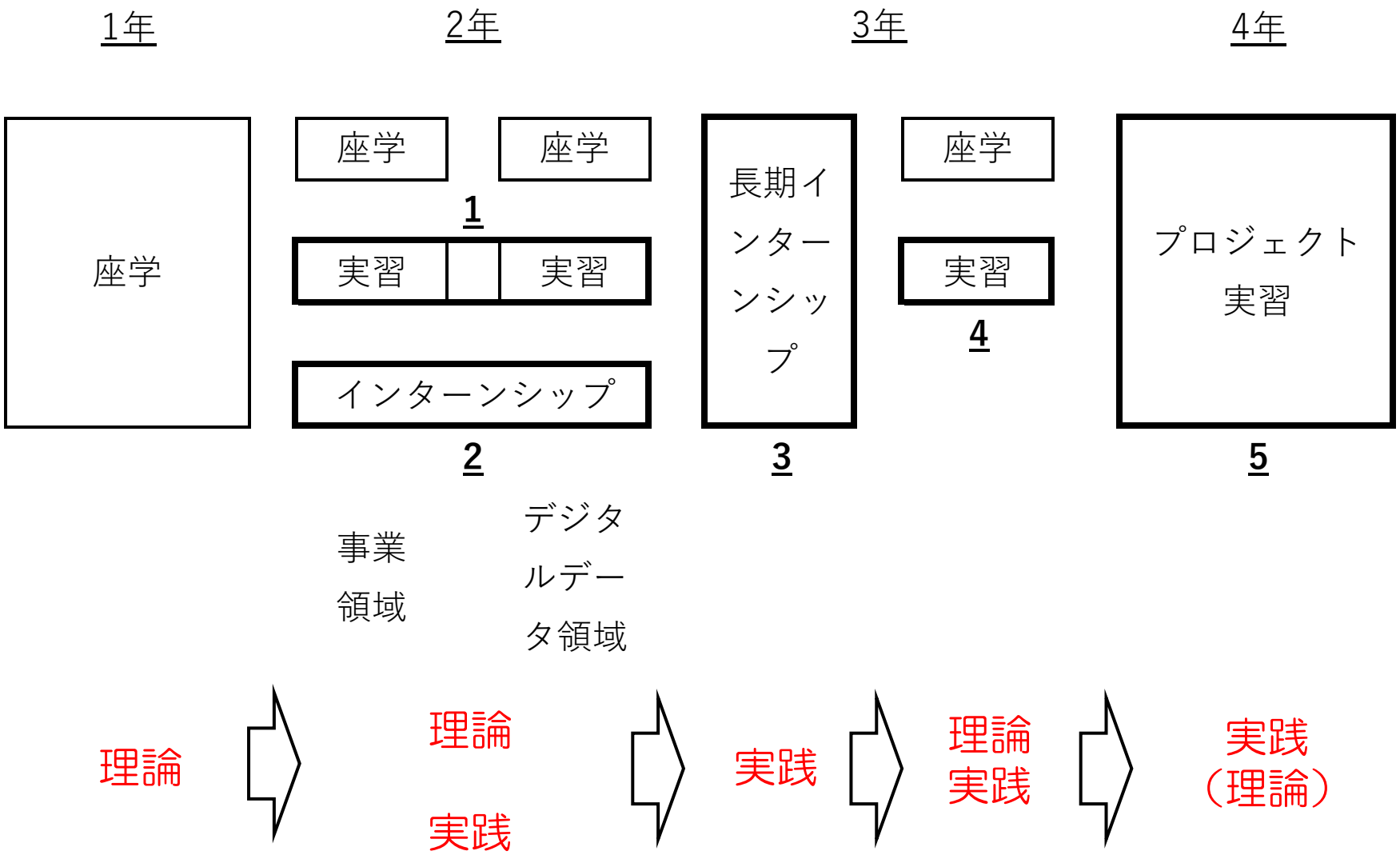
職業専門科目：80単位

うち実習科目：40単位

展開科目：20単位

(1)学生に対する教育

名古屋産業大学では、インターンシップの専門領域で実践経験を有する2名の実務家教員が担当し、企業開拓・プログラム作成、学生の事前学習、伴走支援、事後学習などを行う点に特徴がある。



名古屋産業大学　経営専門職学科　長期インターンシップ１・２・３の特徴

経営専門職学科の養成する人材像

デジタルデータの知識技能を駆使し、企業経営や社会の変化に対応した事業の実践を通じて、価値創造に貢献する専門職人材を養成

DP5 デジタルデータと事業の実践的な知識技能を応用し、事業の改善や価値創造を担うための職業実践力を身に付けている
CP5 職業専門科目の臨地実務実習、および総合科目では、デジタルデータと事業の実践的な知識・技能を応用し、職業実践力を養成する。

長期インターンシップの目的

デジタルデータと事業の実践的な知識技能を応用し、職業実践力を養成すること

実務家教員 8名　**うち2名 長期インターンシップ専門人材**

実務家教員が中心となり
情報共有・連携して実施

1名　情報のみなし実務家教員
1名　税理士資格の実務家教員
他は、研究能力を有する実務家教員

既存学科の限界を専門職大学の制度を活用することで「大改革を実現」
- 学生の参加（必修へ）
- 理論と実践の往還
- 職業専門能力の養成

学内の運営体制

持続可能・改善が促進する仕組みへと改革

キャリア支援委員会
地域連携センター（2021年新設）
教育課程連携協議会（2021年度新設）
職業教育研究センター（2022年度新設）

→ **企業との連携**
→ **企業ニーズを教育課程へ反映**
→ **実践を形式知化（研究推進）**

- 科目名「長期インターンシップ1.2.3」　3年前期、必修科目　18単位（各6単位）
- 参加学生：15名（3年生在籍者全員）　**約90日間の就業体験**
- **受入企業**：大冷工業、名古屋紡績、尾張陸運、堀商会、オフィス浅井、SOWAKA、G-net、わくわくスイッチ、菊武学園→地域の中小企業及び、中間支援団体を中心に選定
- 担当教員：インターンシップ専門人材2名
- **プログラムの特徴**
  Step1 業務補助を通した就業体験
  Step2 企業の課題特定を目指した現状把握
  Step3 課題解決に向けた実践
- **測定する能力**

「基礎」13項目 コミュニケーション能力や礼儀作法などの一般的・汎用的能力
「志向・態度」9項目 経営専門職人材としてのキャリア意識や態度
「知識・理解」9項目 事業を実践し、推進するための知識や理解
「技能」21項目 事業を実践し、推進するための技術・技能・能力

企業との連携

専門人材2名の企業向けプログラム設計ノウハウ
→大学の教育目的と、インターンシッププログラムを合致させ、企業が学生を受け入れたいプロジェクトを設計できる

連携協定先の瀬戸市役所による作成（企業への周知サポート）

学生の教育効果と、企業の事業価値を両立するインターンシッププログラムの仕組み

＜養成する人材・知識・技能・技術が明確＞

デジタルデータの知識技能を駆使し、企業経営や社会の変化に対応した事業の実践を通じて、価値創造に貢献する専門職人材を養成

＜地域中小企業の課題＞

事業創造・企画、デジタルデータ活用（IT）→**人材不足・企業の課題**

学生

企業

シーズとニーズが合致

どの企業・部署でも学生が実行可能なタスクが多く存在

＜実習内容＞
主に事業
「企業調査実習」
「プロジェクト実習」
「統計調査実習」
主にデジタルデータ活用
「ビジネス情報処理実習」
「データベース実習」
「データサイエンス実習」

Step1 業務補助を通した就業体験
Step2 企業の課題特定を目指した現状把握
Step3 課題解決に向けた実践

企業の事業課題解決
（事業価値創造）

企業の負担が少なくて、メリットのある内容。緊急度は低いが、やったほうが良い内容（リスクが少なく実践できる

学生の専門能力向上の
実践的課題（教育効果）

B:元SE（IT領域）
長期実践型インターンシップの社会起業家

大学
（専門人材）

A:事業領域（企画）
インターンシップ
実践者・研究者
書籍・論文など多数

経営領域において学生の教育効果と企業の事業価値を両立させるプログラムの開発した

企業は、長期間実施したい（学生と長く実践したい）
学生は、必須プログラムで全員参加のプログラムで実現

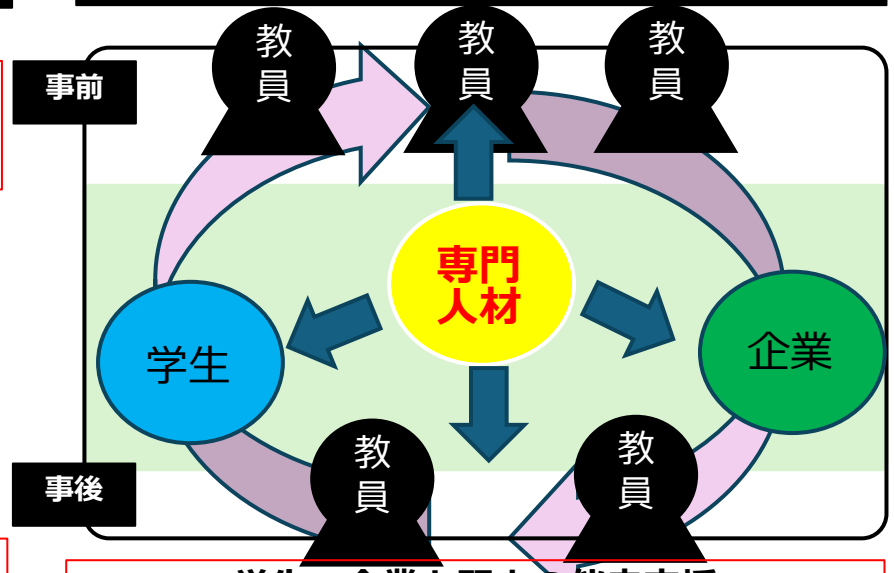
対学生

事前：社会人基礎力・マナーに加え、日報の作成、報告・連絡の実施、アンケート調査、インタビュー調査、データ分析、顧客ヒアリング、企画書作成、計画策定、事業計画の策定を「実習」で学習

実習中：3つのステップに基づき専門職業能力を養成。Slackを活用し毎日日報を確認、中間振り返り、都度助言を実施

事後：振り返り・目標設定に加え、事後の「実習」科目と連携

インターンシップ専門人材の共創に向けた連携



学生・企業と双方の伴走支援
事前・事後で実務家教員と連携
PDCAサイクルを回すことが可能

対企業

事前：実務家教員が、数多くの企業と接触し、養成する人材と、長期インターンシップでの実践内容（事業・デジタルデータ活用）が可能な企業を選定。選定した企業と協議し、企業の「タスク」を理解し、その上で、対話して提案する）

実習中：学生の日報や面談をもとに状況を伝える。さらに、企業からの状況報告・希望を踏まえて、定期的にプロジェクト内容をカスタマイズ・微調整する

事後：次年度に向けた振り返りを行う（多くの企業は、学生にもっと長い時間滞在してほしい。アルバイトや業務委託、就職してほしいとの希望が発生）

体系的なプログラム　事前・事後

1年生 前期	1年生 後期	2年生 前期	2年生 後期	**3年生前期**	3年生 後期	4年生 前期	4年生 後期
経営の基礎理論 デジタルデータの基礎理論				企業での実践	主に学内での実習	自分のテーマを実践	
座学 グループワーク学習		座学と主に学内での実習			ケーススタディ ディスカッション		
事業系実習		企業調査実習	プロジェクト実習 統計調査実習	長期インターンシップ	事業改善実習 社会共創実習	事業価値創造実習1.2	
情報系実習	ビジネス情報処理実習	データベース実習	データサイエンス実習				

DP4
事業に関する実践的な知識技能を身に付けている

DP3
デジタルデータの活用に関する実践的な知識技能を身に付けている

DP2
専門職業人としての基盤となる企業経営に関する知識を身に付けている

DP5
デジタルデータと事業の実践的な知識技能を応用し、事業の改善や価値創造を担うための職業実践力を身に付けている

経営専門職学科の養成する人材像

デジタルデータの知識技能を駆使し、
企業経営や社会の変化に対応した事業の実践を通じて、
価値創造に貢献する専門職人材を養成

デジタルデータと事業の実践的な知識技能を応用し、職業実践力を養成する

インターンシップ先とも共有し
学生が何ができるようになったか？
どのような経験をインターンシッププログラムの中で、企業で働く中で身につけて欲しいかを設定。

当該領域が実現できるプログラムを企業と、インターンシップ専門人材で協議して設計

ワークブック

評価については絶対評価基準とし、A:できている。B：ややできている。C：どちらともいえない（普通）。D:あまりできていない。E：できていない。Z：判断できない　とする。機会がない場合はZをつける。

評価基準

評価	内容
A：できている	期待された水準を実現できている。
B：ややできている	助言・指導は必要だが、理解している。
C：普通	助言・指導があれば、実現が可能である。
D：あまりできていない	助言・指導があっても、理解度が低い状況であり、消極的である。
E：できていない	理解できず、行動もできていない
Z：判断できない	項目の状況が全くないなど、どうしても判断できない

評価項目

1「基礎」　コミュニケーション能力や礼儀作法などの一般的・汎用的能力（共通）
2「志向・態度」　経営専門職人材としてのキャリア意識や態度（マインド）（共通）
3「知識・理解」　事業を実践し、推進するための知識や理解
4「技能」　事業を実践し、推進するための技術・技能・能力

開学段階で、評価方法を策定済

1「基礎」コミュニケーション能力や礼儀作法などの一般的・汎用的能力（共通）

	項目	評価事項		評価基準
1-1	基礎	コミュニケーション	適切なコミュニケーションが取ることができる	A B C D E Z
1-2	基礎	敬語	適切な敬語を使うことができる	A B C D E Z
1-3	基礎	挨拶	挨拶をきちんとすることができる	A B C D E Z
1-4	基礎	関係構築	仲間・先輩と円滑な関係を構築できる	A B C D E Z
1-5	基礎	指示の理解	業務（作業）の指示が理解できる	A B C D E Z
1-6	基礎	質問	不明な点を質問することができる	A B C D E Z
1-7	基礎	ルール遵守	実習先の規則・ルールを守ることができる	A B C D E Z
1-8	基礎	遅刻厳守	無断遅刻、無断欠勤なく実習に参加できる	A B C D E Z
1-9	基礎	私語厳禁	業務（作業）中の私語を慎むことができる	A B C D E Z
1-10	基礎	メモの取得	指示・連絡事項に対してメモを取ることができる	A B C D E Z
1-11	基礎	身だしなみ	頭・手など身だしなみを清潔にできる	A B C D E Z
1-12	基礎	文章作成	文章を作成することができる	A B C D E Z
1-13	基礎	情報活用	（パソコンなど）情報ツールを使うことができる	A B C D E Z

2「志向・態度」　経営専門職人材としてのキャリア意識や態度（マインド）（共通）

	項目	評価事項		評価基準
2-1	志向・態度	キャリア自律・主体性	将来の目標を設定し、主体的に取り組む組むことができた	A B C D E Z
2-2	志向・態度	キャリア展望	業務を通じて将来働く姿をイメージできた	A B C D E Z
2-3	志向・態度	自己理解	自らの能力・技術・技能を理解して行動することができた	A B C D E Z
2-4	志向・態度	実行力	課題に対して最後までやりきることができた	A B C D E Z
2-5	志向・態度	自己成長意欲	業務（作業）に対して積極的・意欲的に取り組んだ	A B C D E Z
2-6	志向・態度	勤労意欲	集中して業務（作業）に取り組むことができた	A B C D E Z
2-7	志向・態度	積極性	不平・不満を言わずに積極的に取り組むことができた	A B C D E Z
2-8	志向・態度	他人を巻き込む力	仲間や第三者を巻き込み協働することができた	A B C D E Z
2-9	志向・態度	ストレス耐性	困難に対してストレスをコントロールして対応できた	A B C D E Z

ビジネスマナー　　社会人基礎力を基盤に設定

3「知識・理解」　事業を実践するための知識や理解

	項目	評価事項		評価基準
3-1	知識・理解	事業・ビジネスモデル	企業の事業・ビジネスモデルが理解できる戦略	ABCDEZ
3-2	知識・理解	業界理解	業界構造が理解できる	ABCDEZ
3-3	知識・理解	業務理解	実習に関連する業務を理解できる	ABCDEZ
3-4	知識・理解	戦略	企業の戦略・強みが理解できる事業	ABCDEZ
3-5	知識・理解	市場調査	マーケティング戦略が理解できる	ABCDEZ
3-6	知識・理解	競合調査	競合調査が理解できる	ABCDEZ
3-7	知識・理解	顧客調査	顧客調査が理解できる	ABCDEZ
3-8	知識・理解	事業計画	財務的な分析・数字の把握ができる	ABCDEZ
3-9	知識・理解	市場調査	事業・業務の推進にむけた定量分析ができる	ABCDEZ

4「技能」　事業の価値創造に向けた実践的な技能・能力

	項目	評価事項		評価基準
4-1	技能	日報	日報を作成できる	ABCDEZ
4-2	技能	報告	報告書を作成できる	ABCDEZ
4-3	技能	相談	業務（作業）に関して適切に「相談」ができる	ABCDEZ
4-4	技能	業務の判断	業務（作業）に関して適正に「判断」ができる	ABCDEZ
4-5	技能	創造力	課題解決のためのアイデアや解決策を生み出すことができる	ABCDEZ
4-6	技能	柔軟性（調整力）	意見の違いや方向性の違いを理解することができる	ABCDEZ
4-7	技能	情況把握力	周囲との関係性を理解し調整することができる	ABCDEZ
4-8	技能	業務支援	業務を支援することができる	ABCDEZ
4-9	技能	業務推進	業務を推進することができる	ABCDEZ
4-10	技能	課題発見	仮説に基づき課題を発見できる	ABCDEZ
4-11	技能	課題解決	課題を解決するための行動ができる	ABCDEZ
4-12	技能	データ収集	必要なデータを収集できる	ABCDEZ
4-13	技能	データ分析	集めたデータを分析できる	ABCDEZ
4-14	技能	データ加工	データを加工することができる	ABCDEZ
4-15	技能	提案	提案書を作成できる	ABCDEZ
4-16	技能	プレゼンテーション	提案書に基づくプレゼンテーションができる	ABCDEZ
4-17	技能	企画	企画書が作成できる	ABCDEZ
4-18	技能	事業計画	事業計画が作成できる	ABCDEZ
4-19	技能	収支計画	収支計画が作成できる	ABCDEZ
4-20	技能	業務改善	業務改善計画が作成できる	ABCDEZ
4-21	技能	行動計画	行動計画（アクションプラン）が作成できる	ABCDEZ

4-18 ～4－21 については実習内容に応じて実施される（いずれかは該当する）

1.デジタルデータ分析
2.経営領域（マーケティング・ファイナンス・企画）
→どの企業の実習でも「学ぶ内容」を標準化した

・学生向けの品質シート

資料編

インターンシップ基準シート

項目			★	★★	★★★	★★★★
事前準備	1	自己理解	自分自身のことを振り返ることができている	これまでの進路選択の理由や，自分自身の適性を分析している	自己分析を踏まえて，自分の長所や短所，強みや弱みを分析して，自分で把握できている	自己分析による自己理解を踏まえて，将来のキャリアの選択肢を検討できている
	2	参加目的	インターンシップにとりあえず参加する	インターンシップに，単位目的や友人が参加するのではなく，主体的に参加している	自分の課題や目標を踏まえて，インターンシップに参加しようとしている	自分の課題や目標に対して，適切な内容のプログラムを検討し，最適な内容に参加している。
	3	企業分析	参加企業について HP などで情報収集をしている	参加企業やプログラムの詳細を検討した上で参加している	参加企業やプログラムについて調査し，自分なりに分析している	業界や同業他社の調査などを実施した上で，企業分析が完了している
	4	目標設定	目標が言語化されて紙などに記載されている	インターンシップの期間で実現可能な目標が設定されている	自分の課題を踏まえた適切な目標が設定されている	プログラムの内容と自分の課題を踏まえて，頑張れば実現可能な具体的な目標が設定されている
実施中	1	事前準備	インターンシップ先の情報を入手している。関係者（家族や大学）への連絡が完了している	当日の集合場所，時間，緊急連絡先，持ち物，服装などの情報を把握している	体調を整えて，当日開始時に問題なく通常通り開始できる状態になっている	必要な準備が完了し，当日開始時に，モチベーションが高い状態で臨むことができる
	2	マナー	挨拶や御礼などの必要最低限のビジネスマナーを守ることができる	インターンシップ中の企業の守秘義務や情報管理などのルールを守ることができる	守秘義務や情報管理に加えて，企業で守るべきルールを遵守することができる	相談が必要な内容は，確認した上で，迷惑をかけずにインターンシップを過ごすことができる
	3	報告・連絡・相談	必要最低限の報告や連絡，相談などができる	適切なタイミングでの報告や相談，連絡ができる	必要なときに，きちんとした方法で，社会人に対してふさわしい報告や連絡，相談ができる	社会人として求められる水準の報告・連絡・相談が常に実現できる
	4	日報・報告書	実施中の出来事を日報に記録し，振り返り可能な状態になっている	毎日の日報を作成し，やりっぱなしではなく，改善可能な状況になっている	日報や報告書を作成し，第三者からのフィードバックも含めて，活動内容の振り返りができている	日報や報告書，第三者からのフィードバックを生かして，活動の振り返りと今後の目標・課題が設定されている
	5	取り組み姿勢	毎日体調を壊さずにやる気を出して参加することができている	元気よくやる気を出して毎日参加することができている	自分の目標や課題に向かって，一生懸命取り組み続けることができている	取り組んだ結果，成果の実現，もしくは自分の課題を克服し，参加前より成長が見を遂げている
事後の振り返り	1	内省・リフレクション	活動後にプログラムの内容を振り返ることができている	当初の目標に対してどの程度実現できたかを客観的に振り返り，分析することができている	ライフラインチャートや日報，報告書，第三者のフィードバックを踏まえて，活動内容を振り返り，分析ができている	活動が分析され，次にやる場合に充実した内容に取り組めるように，具体的な内容として振り返りができている
	2	働くイメージ	活動中に感じた社会人の様子や企業で働くことについてイメージが高まっている	経験を踏まえて，自分が将来働く際のイメージが明確になっている	自分自身の将来のキャリア形成に向けて，インターンシップ経験を踏まえて検討できている	将来，自分がどんなキャリアを歩んでいきたいか，参加前に比べて鮮明になっている
	3	今後のアクション	やりっぱなしに終わらず，次の目標が設定できている	経験を踏まえて，自分の強みや弱みを理解し，課題を設定し次のアクションプランを設定している	アクションプランの設定にとどまらず，既に次の具体的な選択肢を検討している	経験を踏まえて課題を的確に見つけ出し，将来に向けた一歩を検討し，既に具体的に実行している

（学生バージョン）

(2)企業に対するアプローチ

企業との連携のポイント

・プログラムは丸投げはしない。

・事前にこちらの教育プログラムの説明

・実際にやって欲しい内容や入れて欲しいこと
留意点などを丁寧に伝える
（大学で学んだこと、実務でやって欲しい内容）

・企業の関与方法を検討する（1時間から長期間まで）

・企業向けの品質基準シート

項目			★	★★	★★★	★★★★
事前準備	1	基礎準備	プログラムをサポートする専属のコーディネーター及びキャリアコンサルタントが決まっている。プログラムの実施“前”と実施後に関係者で品質基準のチェックし、取り組みの見直し機会を設けている。また、関係者で基準チェックを総合に実施することの必要性を理解している。			
	2	カリキュラムとの接続	大学が提供するカリキュラム（少なくとも１つ以上の授業）とプログラムの関係性を示せている	大学が提供する複数のカリキュラムとプログラムの関係性を示せている	大学か提供する複数のカリキュラムとプログラムの内容が連動したプログラム設計になっている。	大学が提供するカリキュラムとプログラムが相互的に好循環を生み出す設計になっている。（理論と実践の往還）
	3	時間の使い方（流れ）	プログラムの概要と実習の開始・終了時間が決まっている	プログラムのの具体的内容と実習の流れや時間割が決まっている	時間割に加えてプログラムの意図や狙いまで設定された計画になっている	プログラムに関してだけでなく、事前準備や実習外で必要な取り組み等がまとめられ、教育効果が高い内容になっている。
	4	受入体制（人）	受入側として大学等が提供する受入団体向け基礎研修を受講している（担当者が変更した場合、都度受講）。受入責任者が明確になっている。	受入責任者とは別で相談役（＝メンター）が配置されている	受入目的や、学生の情報（特性・志望動機等）が事前に社内関係者と共有されている	受入目的や実習内容に加え、評価指標が整えられており、関わる社内全体に共有されている
	5	受入体制（仕組み）	交通経費・保険・機密保持契約など実習上最低限必要な取り交わし内容や、使用する機材・資材（ＰＣや制服など）が準備されている	報告・連絡・相談のルールやプロセスがあらかじめ明確になっている	朝礼や定期ミーティングなど関係者とのコミュニケーション機会や交流の場が準備・計画されている	定期的に振り返りミーティングや、企業・学生それぞれの相互フィードバックの機会が準備されている

広報	1	募集要項(職種)	何に挑戦できるプログラムか判断できる募集になっている	得られる経験や学びがイメージできる募集になっている	どんな学生に向いているプログラムなのか整理されている	出会える人や実習で取り組むテーマなどが具体的で、プログラムの参加目的に応じて検討できる募集になっている
	2	募集要項(プログラム)	期間や実習時間、必要な条件など基礎的なことが説明されている	スケジュールやプログラムの概要が記載されている	プログラムの難易度や求められるスキルなどが記載されている	インターンシップによる学びだけでなく、企業や社会への影響や波及効果についても記載されている
マッチング	1	選考	学生の情報や志望動機を事前に理解して採用している	学生の選考（対面、オンライン、書類選考等）を実施後に採用している	学生の選考を担当者だけでなく、関わる社員や経営陣など複数で実施後に採用している	選考に加え、インターンシップの実施にあたるリスクや不安、また期待などを相互にすり合わせる機会を設けている

項目			★	★★	★★★	★★★★
プログラム設計	1	コンテンツの設計	プログラム全体の50%以上の就業体験や実践が含まれており、説明会や労働力確保を目的とした設計ではない	キャリア観醸成を促すために、就業体験に加え、働く人との交流や企業風土・文化を体感できる機会が用意されている。	プログラム全体が、実習目的に対して一貫性をもって設計されており、学生にとってわかりやすく示されている	プログラムが、受入企業にとっても本質的な課題やチャレンジに紐づいて設計されている（様々な学生が参加可能な標準化されたプログラムになっている）
	2	就業体験の品質	業務体系に対して、意図の説明や振り返り機会を設けている（単純作業や体験であった場合も）	単純アルバイト等では経験することが難しい業務体験・実践ができる	業務改善提案や事業開発などチャレンジングな業務体験・実践ができる	様々な業務に対して、体験で終わらず実践レベルでPDCAサイクルを回す試行錯誤の経験機会と継続的な内省機会を設けている
	3	学生の学び・気づき①目的の明確化	参加目的を明確になっており、関係者に共有されている	学生と事前面談等を実施し、目的のすり合わせが行われている	学生の参加目的と実習内容のすり合わせが行われており、受入企業側の期待も共有されている	学生・受入企業のそれぞれの目的を共有した上で、共通のゴールが設定されている
	4	学生の学び・気づき②目標設定	インターンシップを通じた学習・成長目標を立てている	インターンシップを振り返るための指標が設定されており、達成度をはかる仕組みができている	インターンシップを振り返るために個人目標を踏まえた指標や評価基準を設定しており、個別対応で達成度がはかれる仕組みができている	インターンシップ生の振り返りの機会を定期的に設けており、再設計や改善に取り組みやすい仕組みができている
	5	学生の学び・気づき③フィードバック	受入企業からフィードバックの機会が用意されている	関係する社員から学生に対しフィードバックをもらえる機会が設けられている	受入担当者がフィードバックに関しての専門性を磨き、学生にとって学び・気づきが深まる体制が整えられている	インターンシップでの学びに関して、受入企業と学生が相互に意見交換や振り返りができる機会が定期的に設けられている
	6	企業理解	企業理解を深める機会がプログラムの中に設計されている	企業情報だけでなく、社員交流などを通じて風土や文化を理解できる機会が設計されている	学生が多様な視点から企業を学べる機会が設計されている	企業の過去や未来、これからのチャレンジなど多角的に学ぶ機会が設けられている

振り返り	1	インターンシップの振り返り	学生が振り返る機会を設けている	学生だけでなく受入企業も振り返る機会を設けている	学生と受入企業が個別に振り返るだけでなく、相互にフィードバックし振り返る機会を設けている	学生と受入企業だけでなく、大学やコーディネート機関など第三者も交えた振り返りの機会を設けている

	中間支援団体 （プロ集団）	オーナー企業 あとつぎ	大学の近隣 企業	その他
2023年度	G-net わくわくスイッチ	大冷工業 堀商店 オフィスあさい 名古屋紡績	SOWAKA 尾張陸運	愛知県中小企業家同友会
2024年度	エネファント	大冷工業 堀商店	大学のOBの企業	尾張旭市役所

中間支援団体（インターンシップ専門）と連携し、中小企業の経営者（候補）や、大学の近隣の企業などとバランスよく実施。受入先を育てながら、大学と中長期的な長期のインターンシップができるような状態を整備
（先端企業の事例を発信し、それをもとに学び合える仕組みへ）

企業にとっての大学との接点

実践

擬似
体験

認知

広報

採用

インターンシップ
（長期）

インターンシップ
（1週間程度）

PBLなどの課題
提示・発表会

企業への訪問
（見学・体験）

企業でのゲスト
登壇（１Day）

会社説明会
（企業展）

多い

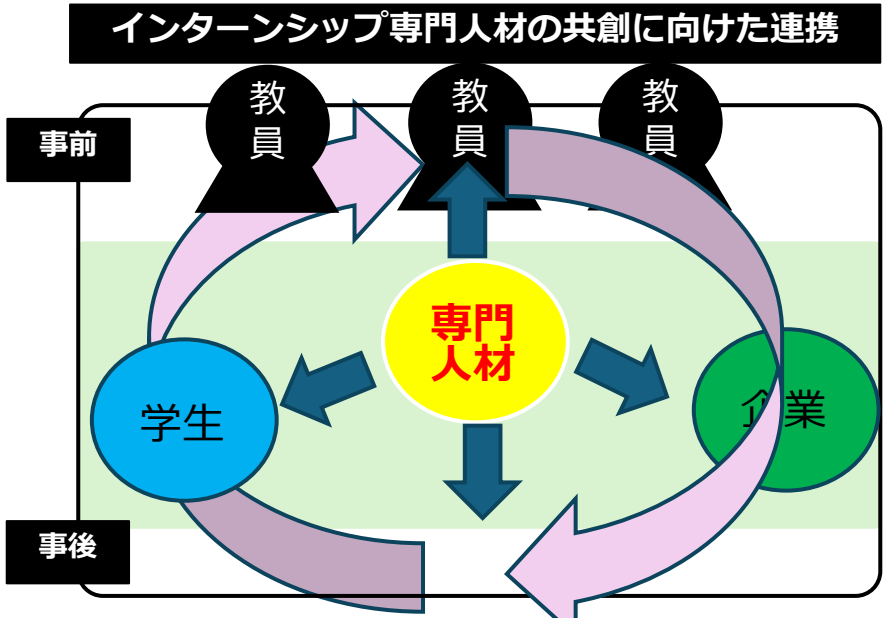
少ない

(3)学内の体制・協力体制の整備

・役割分担：誰が、何をやるのか？

	職員	担当教員	他教員
事前：	書類締結	教育・企業	学生指導
途中：	緊急対応	個別フォロー	サポート（特にトラブル対応）
事後：	なし	個別フォロー	学生指導

やるべきことを洗い出し、
誰が対応するか検討する



(3)学内の体制・協力体制の整備

1.組織的な対応
　学科単位、委員会での対応

委員会

2.教員のモチベーション・仲間づくり
　学会・共同研究、外部の講演

研究

3.学内での興味関心を高めるために
　（学生の活躍、外部からの表彰、外部からの声）

外部との交流
会議の開催

4.予算の確保＝経費削減(効率化した運営)

確保は困難だが
削減は業務改善で可能
（まだまだ課題多い）

5.トラブル時に対応（協力体制・報告連絡相談）
（そもそもトラブルを起きないようにするための労力）

1.自己紹介

2.大学におけるインターンシップの課題

3.名古屋産業大学の経営専門職学科（長期インターンシップ）の導入プロセス

(1)学生に対する教育（教育プログラム、関与方法、評価方法など）

(2)企業に対するアプローチ（事前・途中・事後）

(3)学内の体制、協力体制の整備

4.まとめ（メッセージ）

・大学での長期インターンシップ実施のポイント

- **大学・学部　として一体とした運営が可能な状態になっているのか？**
  （ディプロマポリシーや、カリキュラムポリシー、中期計画などに入っているのか？）
  →入っていない場合は、どのようにして実行する余地があるか検討し実践する。
  属人的な活動から、組織的、全学的な活動へと昇華させられているか？

- **学生に対する教育プログラムが構築されているか？**
  インターンシップ（複数ある場合もあり）を中心に、事前事後のプログラムの設計
  →何ができる状態になるのか？（ルーブリックのようなものを活用・策定する）
  ・1つのプログラムの質を高める
  ・前後の関連性を設計できているか？

- **上記を実現するために具体的にどのような連携を地域の企業とともに実施していくのか？**
  ・地域での関係者、応援者・理解者を作っていけるのか？
  ・明確なメッセージを出す（採用目的だけの大企業なんか（業者含む）とは付き合いませんよ）

学内教育	企業	学内の整備
個人の能力・情報・スキル	企業の募集・協力の方法	教員同士の連携
1プログラムの話	プログラムの策定の話	教員・職員の連携
授業改善・設定の話	実務的な話 （担当者の接し方）	事務・予算・人材（人数）
複数の授業の話	教員・職員との連携の方法	権限・委員会組織
全学部的なプログラムの話	継続的な支援	外部との連携方法 窓口

課題はこれらのどこの問題なのか？それは、どのように対応しているのか？
すべきなのか？優先順位やボトルネックはどこなのか？を考え、改善を重ねていく

インターンシップはどうあるべきなのか

学生

学外での実践機会・成長の最大化

・自己理解・将来のキャリア
・職業能力（技能・技術）、非認知能力の向上
・業界・企業の理解、仕事とは何か、働くとは何か
・学外・世代を超えた関係性

企業

企業にとっても魅力がある関係づくり

・企業の事業価値・社内改革への貢献
・人材育成の一環（被越境学習）
・若手人材の理解
・企業の魅力向上、協働・共創による改善・改革

大学

インターンシップの良さ・特徴を理解した取り組み
（持続的発展が可能なモデルになっているか？）

・インターンシップができること、効果があること
・インターンシップの留意点・体制整備
・学生・企業との関係性をどう構築するか
・実現に向けた組織体制・ルール、予算などの整備

長期インターンシップの魅力（学生）

結果：就職活動の時には
「自己PR」「原体験」

社会人になってから
・経験が活かせる
・能力・自信
・関係性
・キャリア選択

自信・経験につながる

知識・技能

学んだことを活かした実践経験

・業界・企業の理解、仕事とは何か、働くとは何か
・学外・世代を超えた関係性

覚悟・意欲

長期参加

長期インターンシップの魅力（企業）

・企業の事業価値↑
・関係者の満足度↑

→

・人材育成への効果
・社内の改善へ

↑

・適切なプログラム
・適切な接し方
・段階的な設計

→

・人材育成への効果
・社内の改善へ

↑

受入の手間
体制整備

→

長期のプログラム

→

・長期間学生と接する
・成果を残すプログラムが可能

参考文献

＜専門職大学・経営専門職学科、大学におけるインターンシップ＞

今永典秀, 辻 紳一(2024)「経営専門職人材養成に向けた実習プログラムの開発 -実務家教員による長期インターンシップ実習の事前学習の意義-」名古屋産業大学論集

今永典秀, 松林康博(2023)「専門職大学の制度を活用した体系的な教育プログラム -名古屋産業大学経営専門職学科の事例より-」職業教育学の探究 1(1) 59-68

今永典秀(2020)「岐阜県老舗企業による価値共創インターンシップ」21世紀社会デザイン研究学会学会誌 11 76-84 2020年3月

今永典秀, 松林康博、後藤誠一、益川浩一(2020)「産学金官連携による産業人材育成のための教育プログラムに関する考察」2020岐阜大学教育推進・学生支援機構年報 第5号 5 65-77

今永典秀, 松林康博、後藤誠一、益川浩一(2020)「地域連携による観光教育プログラムの考察」2020岐阜大学教育推進・学生支援機構年報 第5号 5 78-89

今永典秀, 松林康博, 益川浩一(2019)「産学金連携による地域創生の取り組みと地域デザインについて」地域デザイン学会誌 (13) 193-213

今永典秀, 松林康博, 益川浩一(2017)「インターンシップによる大学と地元産業界の協働教育 岐阜大学地域協学センター「次世代地域リーダー育成プログラム産業リーダーコース」を中心とした 多様なインターンシップ事例より」2017岐阜大学教育推進・学生支援機構年報 第３号 3 79-91

＜地域創生・中間支援団体・コーディネーター＞

今永典秀(2022)「地域中小企業による有償ジョブ型インターンシッププログラムの構築プロセス -愛知県瀬戸市の建設業による長期実践型インターンシップより-」地域活性研究 17(1) 39-48

今永典秀, 棚瀬規子, 南田修司(2022)「地域中小企業の魅力発見に向けた体験学習プログラムの効果 -NPO法人G-netによる「オンラインシゴトリップ」の事例より-」日本インターンシップ学会 研究年報 25 1-8 2022年10月

髙濱優子, 今永典秀(2022)「ふるさとワーキングホリデーを活用した地域創生インターンシップ －岐阜県美濃加茂市における協働事例より－」グローバルビジネスジャーナル 7(1) 56-63

今永典秀(2021)「地域創生へのインターンシップ―コーディネーターの重要性」日本労働研究雑誌2021年8月号 73-84

今永典秀, 鳥本真生(2022)「中小企業の長期実践型インターンシップにおけるコーディネーターの存在価値ー地域中小企業・コーディネーター・学生の3者の視点からの調査分析ー」
ノンプロフィット・レビュー 21(1) 57-70

＜行政＞

今永典秀(2023)「行政インターンシップの改善プロセス-愛知県瀬戸市役所の部署横断プログラムの開発事例-」地域活性研究 18(1) 81-90 2023年3月

今永典秀, 松林康博, 益川浩一(2019)「統計調査に関する官学連携インターンシップの考察」地域活性研究 11 61-70

＜高校生向け＞

今永典秀、清水敬介(2024)「部活動による高等学校のアントレプレナーシップ教育の可能性 ―滝高等学校ビジネス部の事例より―」グローバルビジネスジャーナル (9) 1-9

今永 典秀, 清水 敬介(2019)「起業家育成を目指した地域との協創:–滝高等学校ビジネス部の事例より–」グローバルビジネスジャーナル 3(1) 14-19 2018年3月

＜社会人インターンシップ・プロボノ・兼業＞

今永典秀(2024)「中小企業への越境学習と中小企業にとっての被越境学習」商工金融 30-45

今永典秀(2020)「社外のプロボノを活用した地域の中小企業の価値創造プロジェクト -NPO法人G-netによるふるさと兼業の事例より-」地域活性学会 13(1) 41-50 2020年10月

＜共創・場づくり＞

今永典秀(2023)「関係人口創出に向けたオンライン環境を活用した共創の場の可能性」
地域活性研究 19(1) 51-59

今永典秀(2023)「ニューノーマル時代に向けた共創空間の可能性 ―株式会社オカムラのCueとCue Dream PJの事例ー」社会デザイン研究学会 学会誌 14(1) 111-119

お気軽にご連絡ください

・プログラムの作り方
・大学での展開方法
・FD/SDなどのご協力
・学生向けの事前学習
・発表会のコメント・フィードバック
・企業の方のプログラムの策定・改善
　などなど・・・・

お役に立てるところは貢献したいと思っておりますー。

今永典秀
n-imanaga@nagoya-su.ac.jp